

昭和五年三月  
岩手県文化財調査報告書第四十四集

平和街道

岩手県「歴史の道」調査報告

岩手県教育委員会

昭和十五年三月  
岩手県文化財調査報告書第四十四集

平和街道

岩手県「歴史の道」調査報告

岩手県教育委員会

## 序

道・河川などの交通路は、古くから文物や人々の交流の舞台になっており、本県の歴史を知る上にきわめて重要な意味をもっております。しかし、近年、産業経済が著しく発展し、社会構造が変遷するなかで、かつては交通が大変不便であった山道も改良され、舗装されて近代的な道路にかわりつつあります。これに伴って街道の並木、番所跡、一里塚などの交通関係の遺跡も急激に失われてきておりますが、本県では、このような現状を重視し、昭和五十三年度から国庫補助を受けて歴史の道の調査を実施して参りました。

本報告書は、本年度に調査しました七街道のうち、奥州道中の花巻宿から南西へ岩崎街道を通り、さらに沢内街道を通りて羽後国平鹿郡にいたる「平和街道」の岩手県分について、街道の現状と文化財の保存状況など、その周囲の環境を含めて総合的に調査し、その成果を集成したものであります。

本書が、今後の交通関係遺跡の保護及び歴史の道研究の一助となれば幸いります。  
なお、調査に御協力いただきました調査員各位並びに関係市町村教育委員会をはじめ諸資料を提供してくださった方々に対し、衷心より感謝申し上げます。

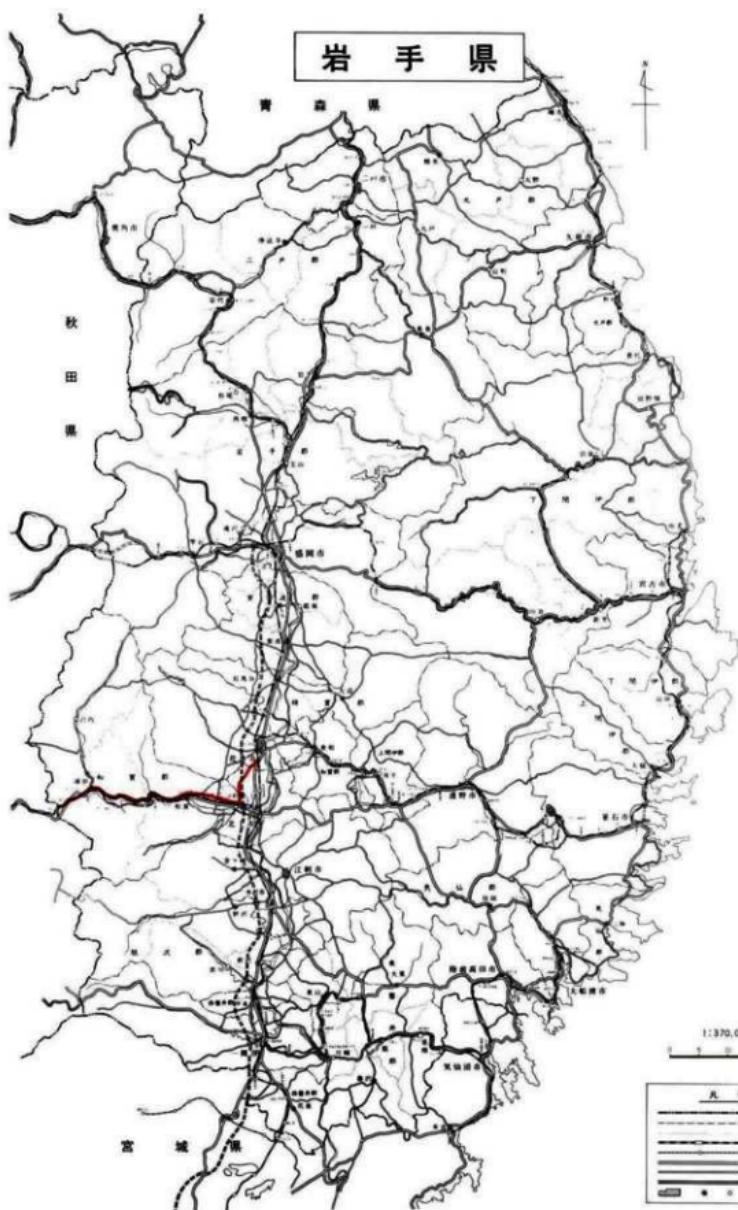
昭和五十五年三月

岩手県教育委員会

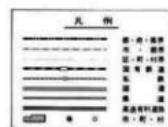
教育長 新里

盈

# 岩手県



1:370,000



## 例　言

一、本書は歴史の道「平和街道」に関する報告書である。

二、本調査は主として次にあげるものを収集し、調査を実施した。

(1) 収集したもの

古文書、地誌類、紀行文、古絵図類や明治時代の実測図など。

(2) 調査した事項

ア 道及びこれに沿う地域に残る遺跡の分布状況と保存の実態

イ 江戸時代の国界・藩界及び郡名

三、本調査の調査員・補助員は左記のとおりである。

主任専門調査員　草間俊一　岩手大学教授

専門調査員　細井計　岩手大学教授

専門調査員　古田義昭　盛岡市教委文化財専門員

地区調査員（江釣子村）萩原二郎　江釣子村文化財調査員

地区調査員（和賀町）工藤定一　和賀町文化財調査員

地区調査員（湯田町）高橋重一　湯田町文化財調査員

地区調査員（沢内村）田中助衛門　津落公民館長

補助員　高橋哲郎　岩手大学文部技官

四、調査の方法は、地区調査員が調査カードを作成し、調査カードにもとづき専門調査員が確認調査を行なった。

五、本書は、主任専門調査員草間俊一が執筆し、文化課が編集にあたった。

目 次

岩手県教育委員会教育長 新里 盛

序

例 言

一 まえがき

二 街道の概況

三 文化財、その他

南部領貢亭図

写 真

地 図

# 一、まえがき

平和街道は「明治十五年六月秋田県山内村資料」（湯田町史料第2集父通篇）に「平和街道と云うのは、平鹿郡横手駅より岩手縣和賀郡黒沢尻駅に達する道路」とあるので、平鹿郡の平と和賀郡の和をとつて平和街道と称したものであるが、その頃岩手県では、この名称が一定しなかつたようである。明治十年区費例則第十二条第七によれば、「管内ニ最も著名ナル道路橋梁左ノ三十三線路」としてあげてある「秋田駅」を称する六街道の一つに「黒沢尻ヨリ仙人崎ヲ通り越中畠ソ經テ秋田駅境ニ至ル」としており（「県文書」）、明治十六年県統計書に「山形街道（其二） 黒沢尻ヨリ用尻越中畠ソ經テ秋田駅ニ至ル、途中西駅」とあり、「岩手縣史」の年表によれば「明治十五年十月二十七日 横手街道（後平和街道と称す）開通し」と云っている。しかし、明治二十三年県道改修案以後、岩手県でも平和街道と称して今日に至っている。

藩政時代においては、盛岡藩は城下盛岡を中心とした領内の道路を引いていたので、今日のように黒沢尻からなく、花巻—飯豊—江釣子—岩崎—桜孫—仙人崎—川尻—越中畠—木崎の道筋がとれていた。従って、「盛岡領内大道筋記」（県立図書館蔵）に次のように記されている。

一 花巻ヨリ山口マデ  
此間御用度十石開深二尺  
和買前度十石開深二尺

一 山口ヨリ越中畠マデ  
此間御用度十石開深二尺

一 越中畠ヨリ白木崎日マテ止ト；十六開

この道筋を「南部領貞享國」（県立図書館蔵）によって見ると、花巻—森村—越中畠—白木崎—秋田領小松川となっている。この道筋を現在の五万分の一の地形図に当つてみると、花巻から岩崎村までの道筋は理解し兼ねる道筋となつてある。というのは、この道筋が廻りしすぎている。従つて、慶応元年（一八六五）作製の「万丁目通御代官所百間八分積略圖」、慶応二年作製の「子延御代官所百間八分積略圖」と、同じ頃作製の「黒沢尻通経圖」（共に盛岡公民館蔵）とをつなぎ合せて見ると、花巻から煤孫村まで行くのに、花巻から岩崎村を経て行く、岩崎道を利用するものと、花巻から横川目に出て、和買川を渡つて瀬戸内海にいく瀬戸内海道の二つが記されている。

これを現在の五万分の一地形図に当つてみると、岩崎道を利用するものは花巻—山の神—川向—門屋—新平（音田）—武田一大防（御免町）—佐野で和買川を渡つて岩崎村に行き、それから煤孫村へ行くことになる。瀬戸内海道は花巻の南端桜町より、松原—不動—飯豊森の東側を通つて、上文字—春木場—大町—豊田目の空堀に出で横川口の長瀬から和買川を渡つて、対岸の瀬戸内海を行くものである。この道は前掲の「百間八分積略圖」では、「文字から真直ぐ南下して新平で岩崎道と合流していく、何んて瀬戸内海道とするが明確でないが、五万分の一地形図の作製された当初の大正二年のものには、上記の春木場—大町—豊田目の道筋が記されている。前掲の三つの通の「百間八分積略圖」で見ると屈折はするが、森下—相野—作十根根より西南に入つて大橋—長根—下杉—柏野—南野—東木田—長瀬の道筋をとることは出来る。岩崎村宿に御番所があつたことなどを考へると本道としては岩崎道であつたと考えられる。延享四年（一七四七）著と推定されている「延喜花卷夏油温泉泥一見記」（門脇光校註、和賀郡史談会・昭和五十三年）に、岩崎街道について述べてある。なお岩崎街道から西に向う街道について、沢内街道と称し

ている。「郷村古実見聞記」(「南部叢書」第四冊)の一物留等之番所川筋通中番所之脇左之通一の項の「物留御番所(宿)」のところに「仙人峠越沢内之道にて」とあるように、岩崎村から西への道は「沢内街道」または「沢内道」といわれたもので、花巻から通しての名称はなかったようである。

貞享四年にはないが、黒沢尻から江釣子・長沼・堅川日・横川日への道も通じており、弘化二年(一八四五)の北鬼柳村絵図面には「平貞木街道」とあり、そのつづきの道が同年の「上江釣子村と下江釣子村の絵図面」には、瀬

烟道と記されている。黒沢尻から沢内に行くのに、この道路を通って、佐野で和賀川を渡って岩崎村宿へ行くか、横川日から瀬煙に渡るか何れかで、江戸時代に黒沢尻からの道路も開けていたものである。

なお、和賀郡東柳村安政五年秋柳村為御吟味御手打疏被仰下候御御調御吟味出役御勘定方御村百間四寸幅取調候絵図面(北上市役所蔵)では、奥州道中より和賀川沿いにその南岸に沿うて岩崎村に通する道を「岩崎街道」と記してあり、岩崎街道と名称は特定の一つだけではなく岩崎村への道の意味でつかわれていた。

以上のように、今日平和街道と称している道は、奥州道中から岐れ瀬煙にまでいく道筋は幾つかあったが、その一つ一つについて調査する時間もなかったので、本道と考えられる花巻よりの岩崎街道と、それに続く沢内街道から白木咲までについて精細に述べることにした。

調査は花巻市と江釣子については萩原二郎氏、和賀町については工藤定一氏、湯田町については高橋重一氏が、地区調査員として、調査したのをもと

に、八月七・八日の両日と九月十一・口に花巻市について、花巻市教育委員会職員の案内で調査した結果について述べることにした。この平和街道の調査

も仙北道・秋田街道の調査と同様、自転車で通っただけで、山地の旧道の残存部についての踏査が不充分であるので心残りに思っている。

なお、沢内街道には、盛岡から平石を経て沢内村に行く沢内街道があり、

沢内街道という場合、この通路が重要であった。この沢内街道について、盛岡市分については菊池富雄氏、平石町については川崎義仲氏、沢内村については田中助衛門氏が地区調査員として調査資料を作成した結果に基づいて、沿線地調査も行ったが、私の調査が余り不充分なので、その報告は来年度に譲った。本年度報告した分の不足分を来年度併せて調査した上で報告したいと考えている。

## 註

「北鬼柳村絵図面」は「和賀郡北鬼柳村平化一年春調日立御吟味木御下行瀬御付御調御時朱雀山役御勘定方御村百間四寸幅取調候絵図面」とあるもので、上江釣子・下江釣子村のものも同年に書かれたものである。江釣子村役場に写した絵図面が保存されている。

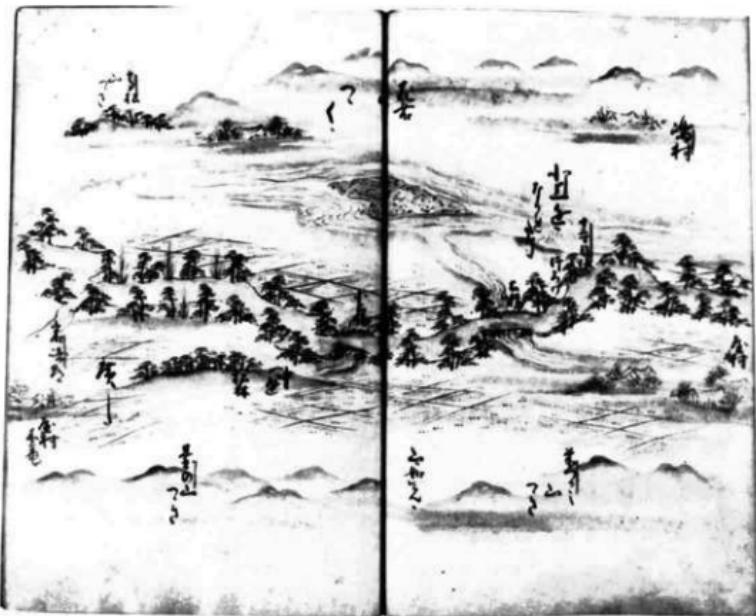
これらの絵図面にうち、下江釣子村・新平村・滑田村のものに、花巻から来る「岩崎道」が記入されている。なお、滑田村について後地図面と見らる、同じ平化一年作成の「拾松の松谷」の絵図面が、「江釣子村民俗資料館」に保管されているが、それには「岩崎街道」と記されている。これらの絵図面には花巻から来る「瀬煙標道」が記入されていない。

平和街道は江戸時代は「岩崎街道」と「沢内街道」となっており、越中畑からは、秋田領小松川への道となっているので、別項として「岩崎街道・沢内街道」とした。

## 二、街道の概況

### (1) 岩崎街道と沢内街道

花巻市の南方にある南城小学校の東側を通る奥州道中は、江戸時代の道筋と若干変っていることは、松並木が校庭に入ったところで斜に校舎に向って



増補行程記 清水秋生筆

いることによつて明らかである。岩崎街道は校庭の北端あたりで、奥州道中と岐れていたらしい。道は現在の体育馆の西側を通つて、西南に進むが相当改修されたらしく直線になつてゐる。東北本線横切るこの道は、通行禁止になつてゐるので、旧道の面影をやや残してゐる。現在の国道四号線に出る附近で旧道は破壊されている。国道を横切つた西側の山の神の坂を登る付近から台地に登つた五百メートルほどは旧道の面影を残してゐる。奥州大学への通路と交叉する南の部分の道は改修されているが、県の園芸試験場の西側を通る附近では旧道の面影が残つてゐる。飯豊川を渡る附近から、水田の構造改善に伴う道路の改修によつて、道は巾広く整備されて、直線に西南方にのびてゐる。門屋の道路西側に天王神社があり、更に進んで奥寺坂を渡る手前の東側に奥寺神社がある。門屋までは途中に民家も石碑もなく、これが街道のあつたところかと思われるほど単調な道である。門屋をすぎて新平までの間も、水田の中を構造改善の道路が通つてゐるだけでも、同様単調な道である。新平の交叉点に入る手前に一里塚があつたといわれてゐる。

新平は瀬原道といわれた飯豊森の東側を通る道が合流するところで、現在も篠間に通ずる舗装道路との交叉点となつて、集落として民家も多くあり、十字路には石碑なども立つてゐる。この十字路から百メートルほど南下すると東西に走る低い丘陵を越える。この丘陵の東側に新平駅家擬定地があり、この丘陵一帯には繩文の遺跡も數多くある。この丘陵の西側に、岩崎街道と沢内街道を通じて唯一つの道標がある。記年銘がないので、何時のものか明らかでないが、江戸時代のものであることは疑ひ難い。それに「左せへた」道とあるのは理解し兼ねるが、瀬原道と岩崎道とが新平で合流し、南に進み、天保の絵図面にある黒沢尻から和賀川の北岸沿いに横川目に向う瀬原道に通ずるからと解するしかない。

この丘陵の南側で、道の西方一〇〇メートルのところに八坂神社がある。その八坂神社の東側に先程の道際に通する道があつて古い道の名残をとどめ

ている。この道がもとの岩崎道といわれ、この丘陵に旧道が残っている。これから国道と交叉する大防十文字までは水田の構造改善に伴い、道路も相当改修されているので、旧道の面影は全くない。

現在の国道と交叉する大防十文字から、和賀川の河岸までの道路は比較的手が加わっていないよう見られる。川岸の佐野から対岸の岩崎村の宿に和賀川を渡つた。前記「貞享國」には、「和賀川徒渡底千五間深二尺、山川故少ノ雨ニモ洪水出渡不自山」とあり、徒歩渡りであった。岩崎村宿には「物留御番所」があり、仙人跡を越えて沢内への往来の物資の監視に当つた。

岩崎村は中世この地方を支配した和賀氏の居城岩崎城のあったところで、和賀地方の中心地であった。和賀氏は後に北上市二子の飛勢城に本拠を移したが、支族岩崎氏の居城となり、慶長五年領主南浦氏に対する反乱（岩崎一揆）の本拠となつた城である。現在、城跡に心ない天守閣が建てられてゐる。この岩崎城跡周辺には、岩崎八幡神社、駒形神社、岩崎神社（白鳥神社）をはじめ、石塔婆などがある。岩崎城の下を通る道の両側に一里塚があつたと大正十五年の「岩崎村史」に記されているが、戦後の道路改修によつて跡方もなくなつてゐる。更に西に向つて、桜ノ木には止雲寺跡がある。岩崎代伝柏山平左衛門の五輪塔がある。

なお、下中島にも「物留御番所」があつた。和賀川筋の番所で、川を利用して輸送する材木や物資を監視した。宿から止雲寺周辺までの旧道は改修されているが、もの道が利用されている。止雲寺附近から下中島の番所への道、更にそれから西、小田中までは、水田の区画整理によって、完全に旧道は破壊され、南方の山ざらに現在県道が通じている。旧道沿いにあった豪邸等は現在は水田の中に位置している格好である。小田中には、里塚があったと記されるが、区画整理によつて現在は跡方もない。また道路沿いに石塔婆があつたが、現在は隣接の古跡神社に移されている。この間、県道沿いには、馬峯観音、古跡神社がある。また小山田の丘陵の尾根の先端には一元亨三年

三月十二日の一の記年銘のある板碑がある。

小田中の一里塚の少し西で、旧道は県道と繋なつて、完全に舗装された道路となつてゐる。漁港は横川日の長漁から波舟場があつたところへの渡しが徒渡りであったが、長瀬の渡しは明治前代は勿論のこと、江戸時代末には舟渡が行なわれたのではないかと推定される。従つて、前述した天保の絵図面に「漁港街道」が記入されたとも考えられる。

岩沢の由代に一里塚が戦前まで残つてゐたといわれるが、戦後の道路改修によつて跡方もなくなつてゐる。それから一キロメートルほど西に行つた下仙人に、現県道の北側に旧道が若干残つて、そのところに石碑などが立つてゐる。それから西へ行くと真鍮北上線で、高田道はなくなるが、岩沢駅の南側付近で、現在も村道として残つてゐるが、背後の面影はない。しかし、平和橋の南にある老人休養ホームの付近に、旧道がそのまま、街間に残つてゐることが一百メートルほどある。旧道は更に西へ鉄北上線岩沢トンネルの上の丘陵の先端を越えて、登つて切羽へ下りたものであるが、この道は今日通行は困難である。

切羽の平地に下りた旧道は改修されて、昔の面影はないが、和賀仙人小学校の西方に百メートルほど、旧道が細長い路となつて残つてゐる。旧道は和賀仙人墓山株式会社敷地を通り、仙人跡へと登ることになる。工場敷地内の道路がどの程度、旧道を利用しているか明確でないが、仙人跡道は昔のままである。しかし現在は通る人もなく平常は通行困難であるが、山上にある久那波神社に紅葉の重蔵を切りはらつて登るとのことであつたが、その機会をもたず、これを呂くのは甚だ心残りである。標高四三六メートルの仙人跡は貞享國にも「仙人跡大舞所四里間雪牛馬不通」といわれた難所であつたが、現在は隣接の古跡神社に移されている。

の下の道はダムの湖底となっているので、西の方から登ることは困難となつてゐる。昨下から川尻までは旧道も湖底となつてしまつたが、湖底となつても湖畔の道となつていて、明らかでない。ただ、岐山牧場の中に「里塚」が一基残存している。径七メートルほどの円形で、高さ二メートルほどある、立派な「里塚」である。

用尻から櫻沢までの道路も改修され、昔の面影はない。櫻沢から和賀川を渡つて、湯田の明神のところえ出で、県道を北へ一キロメートルほど進んで、西方の山間部に入る旧道が下左草まで残つてゐる。この道に入つて五百メートルほど行った左側に「豊沢の・里塚」が一基残つてゐる。下左草から桂沢を経て、芳が沢に来ると道路の西側に「里塚」が残つてゐる。この二つの「里塚」は岐山の・里塚よりやや小さくようである。

一方が沢の・里塚より越十畳まで舗装した道路に改修されているが、その道路沿いにところどころに、旧道が残存しているが、自動車で通つだけの調査方法ではその精細を調査出来なかつたのは心残りである。

越中畠は「郡内郷村志」に「越中畠御番所」此所秋田境、横手往来、秋田閑所在小松川」といわれた御番所のあったところである。御番所跡と推定されるところに現在案内の説明板が立ててある。越中畠の民家のある部落を出はずれたところである。その手前に老杉の数本立つてゐるところに沢口神社がある。神社には明和元年(一七六四)の棟札がある。

これから「廿三十六開」白木村の秋田県境に登る山道が、昔ながら状態で残つてゐる。白木村については「郡内郷村志」に「此山以嶺上・東西表裏為両国界限矣。以山北為往尾也。東嶺下有・南部開所・称・越中畠。西嶺下有・佐竹関所・號・小松川。是奥州道也。然甚険阻不容易。亦從足。南果郡有古往来道名秀衡先道最平夷也。然遙遠故後世關白木道直云。」あり。「沢内風土記」に「來白木鏡面東有南部之閑門稱・越中畠。西有佐竹之閑門・稱・小松川。其間凡十二里許而跡其崎嶇附葛攀・藤。則是東馬

懸車之逕也。故行担・丸左者、不得易至其右。爰以不通輶興率・裸馬不・載物。況於騎乘。」とある。駒船な峰であった。従つて、この峰道の途中に牛留などと云われるところが残つてゐる。

## 二、文化財・その他

- (1) 花巻市・江釣子村  
岩崎道への分れ附近に残る松並木（南城小学校校庭）  
紀年銘がある

- (2) 不動の道標（元文五年(一七四〇)）  
左：古きよみす海道  
右：せばた海道

- (3) 飯豊森 延喜式社の「和賀飯豊登拏神社」のあつたと推定されるところであるが、現在それらしい神社もなく、小祠があるにすぎない。  
(4) 天王神社  
花巻から来る道路沿いにある、最初の神社であるが、創建は幕末の創建らしい。文政二年の百万遍供養碑が最も古い。

- (5) 奥寺神社  
江戸時代の前期、寛文五年(一六六五)―延宝三年(一六七五)満九年間をついて、奥寺新田を開発した奥寺新田(五・七九年)を開発した功をたたえて祀られたものである。

- (6) 新平・滑田の道標  
左：古往来道名秀衡先道最平夷也。然遙遠故後世關白木道直云。

- あり。「沢内風土記」に「來白木鏡面東有南部之閑門稱・越中畠。西有佐竹之閑門・稱・小松川。其間凡十二里許而跡其崎嶇附葛攀・藤。則是東馬

- (1) 蒼前神社  
駒ヶ岳山上の駒形神社の下宮といわれている。
- (2) 二前神社  
祭神大那岸遜命と少邑古名命である。寛延四年（一七五一）の年号のある庚申塔がある。
- (3) 岩崎城跡 文参照本  
下中嶋の御番所跡
- (4) 一里塚跡 本文参照  
馬峰御番
- (5) 正雲寺 曹洞宗の寺院、柏山平左衛門の五輪塔がある。
- (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14)
- (1) 新平遺跡  
右ハ山みち  
馬頭観世音  
左ハせいた道  
南ハ滑田村
- (2) 昭和三十一年から三十三年に調査して、駅家擬定地とされ、県指定遺跡となっているが、駅家擬定地には疑問がある。般治場跡としたのは単なる住居跡にすぎない。
- (3) 八坂神社 本文参照
- (4) 御免町  
奥寺新田開発に当たって、いか様の重罪人でも、ここに来て住わせて、新田開発の人夫として働かしたという伝えのあるところである。その時の高札といふものが『從花參夏油温泉迄一見記』にのっている。
- (5) 和賀川の川渡ししたと云われるところ
- (6) 八幡神社  
年貢米街道（酒畠街道）沿にある神社である。宝曆九年（一七五九）と明和元年（一七六四）の「庚申供養塔」がある。
- (7) 江釣子古墳群のうち猫谷地古墳群の所在地  
子村民俗資料館がある。
- (8) 古館神社  
蟻孫城の跡である神社であるが、本尊は觀音であるが、神仏分離のときに古館神社となつた。境内に「いも神」の碑がある。
- (9) 麗昌寺  
法華山要昌寺で曹洞宗である。寛文四年（一六六四）より現在地に建てられた。
- (10) 庚申供養塔  
一か所に石碑が集められている。古いものは明和元年（一七六四）のものである。
- (11) 元亨三年（一三二三）の板碑がある。高さ一二四センチメートル。
- (12) 一里塚跡 本文参照  
山口八幡神社  
境内に杉の古木がある。
- (13) 山口八幡神社  
田中館  
空堀があつて古い熊跡である。
- (14) 和賀町

千手觀音堂

慈覚大師創建と云われている。境内石塔姿あり。古いものは享保十一年（一七二六）の「三界万空等」である。

豊天の一里塚 本文参照

子安地蔵といわれている。

湯畠の渡舟場

松林の地蔵

岩穴の一里跡 本文参照

岩穴の旧道沿の石塔塚

修驗院

仙人権現別当多聞院で、八か所に棟札を残している。本尊に十一面觀音をまつてある。

秋田街道跡

芳ヶ沢の一里塚 本文参照

久那波神社

柳沢の山祇神社

久那波

天保十二年（一八四一）の棟札あり。

久那波

大山祇神社

久那波

享保十七年（一七三二）の棟札あり。

久那波

白木野の大山祇神社

久那波

宝曆五年（一七五五）の銘のある御神体あり。

久那波

沢口神社

久那波

明和元年（一七六四）の棟札あり。

久那波

越中蛭ヶ所跡 本文参照

久那波

天保十三年（一八四二）の「南無阿弥陀仏」の碑

久那波

牛留

久那波

地蔵

久那波

大杉

久那波

白木崎頂上

久那波

石碑

久那波

天保十三年（一八四二）の「南無阿弥陀仏」の碑

久那波

湯田町歴史民俗資料館

久那波

○江釣子村民俗資料館・文化財収蔵庫（教育委員会）

久那波

五条丸古墳を主として、村内各地から出土した遺物を保管してある収蔵庫に隣接して、昭和四十六年民俗資料館が建設された。これには村内の民俗資料を展示してある。同じ敷地内に農具を展示している南部曲り屋（片

延享四年（一七四七）の額と寛延三年（一七五〇）の棟札。

中門を移築してある。

○湯田町地方歴史民俗資料館（教育委員会）

昭和五十三年十一月開館、大台野遺跡の出土品を中心に、湯田町に関する考古資料、文書資料、民俗資料の収集保存・展示を行っている。湯田町には鉢山がむかし采えたその資料を展示してある。

○湯本博物館

湯本温泉の一休館主が、旅館に隣接して作ったもので、江戸末期から明治・大正・昭和初期にこの地方で使用していた農機具、養蚕具、鍛冶具、機械具、鉢山用具、家具、什器、被服など多數展示してある。この他に旧陸海軍の遺品、印度・中国・インドネシア民具なども展示してある。



南部領貞享図（岩手県立図書館蔵）



花巻市 岩崎道の通っていた南城小学校裏



花巻市 岩崎道との分岐点付近の奥州道中の並木



花巻市 山の神付近の岩崎道



花巻市 山の神の坂の登り口の岩崎道



花巻市 東北本線を横切る付近の岩崎道



北上市 園芸試験場に向う岩崎道



花巻市 奥州大学への通路と交叉する付近の岩崎道(中央の細い道)



北上市 天王神社付近の岩崎道(南より北方を見る)



北上市 天王神社



北上市 奥寺神社



北上市 天王神社付近の岩崎道(北より南方を見る)



北上市 奥寺神社前の奥寺堀



江釣子村 新平と清田の境の道標



江釣子村 新平一里塚跡？



江釣子村 道標よりの登り道 岩崎道



江釣子村 道標のところの岩崎道



江釣子村 八坂神社とその前を通る岩崎道



江釣子村 新平台地の旧岩崎道



江釣子村 佐野付近の岩崎道（北より南方を見る）



江釣子村 佐野付近の岩崎道（南より北方を見る）



江釣子村 不動の道標



江釣子村 佐野より岩崎村宿に渡る付近の和賀川



江釣子村 阿彌森山の小祠



江釣子村 阿彌森への登り口



江釣子村 八幡神社



江釣子村 現在の灘畠街道 右手の丘が飯豊森



江釣子村 江釣子神社



江釣子村 現在の国道と交わる付近の年貢米街道



江釣子村 バイパス付近旧年貢米街道



江釣子村民俗資料館



江釣子村 猫谷地古墳



和賀町 葦前神社外門



和賀町 村社二前神社



和賀町 実延 4 年 (1751年) の庚申塔



和賀町 岩崎城跡



和賀町 石塔婆 (岩崎城入口)



和賀町 岩崎八幡宮



和賀町 駒形神社



和賀町 岩崎神社（白鳥大明神）



和賀町 一里塚跡（岩崎）



和賀町 柏山平左衛門の五輪塔



和賀町 駒番所跡（岩崎）



和賀町 煤孫寺



和賀町 古館神社



和賀町 古館神社境内にある いの神



和賀町 元亭の板碑



和賀町 慶品寺



和賀町 石塔婆（古館神社境内）



和賀町 和賀町内で2番目に大きい杉



和賀町 一里塙路



和賀町 田中館



和賀町 千手観音堂



和賀町 石塔婆



和賀町 游船の渡舟場



和賀町 一里塚跡（岩沢）



和賀町 下仙人の旧街道沿いの石塔婆



和賀町 街道跡



和賀町 修驗院



和賀町 沢内街道沿いの井戸



和賀町 岩沢駅付近の沢内街道



和賀町 沢内街道沿いの井戸



和賀町 和賀仙人敷地内の沢内街道



和賀町 切留よりの岩沢への山越えの沢内街道



湯田町 純山牧場内の沢内街道



湯田町 純山の一里塚



湯田町 長松神社



湯田町 八幡宮の御神体



湯田町 湯本神社



湯田町 ダミ沢の石碑



湯田町 豊沢の一里塚



湯田町 現在の県道よりの越中塚への道の分岐点付近



湯田町 松林地蔵



湯田町 豊沢一里塚付近の旧道



湯田町 越中塚への途中の旧道



湯田町 芳か沢の一里塚



湯田町 番所跡近くの街道沿いにある石碑



湯田町 越中畠番所跡



湯田町 沢口神社



湯田町 番所より白木峠への道



湯田町 白木峠地蔵



湯田町 白木峠頂上



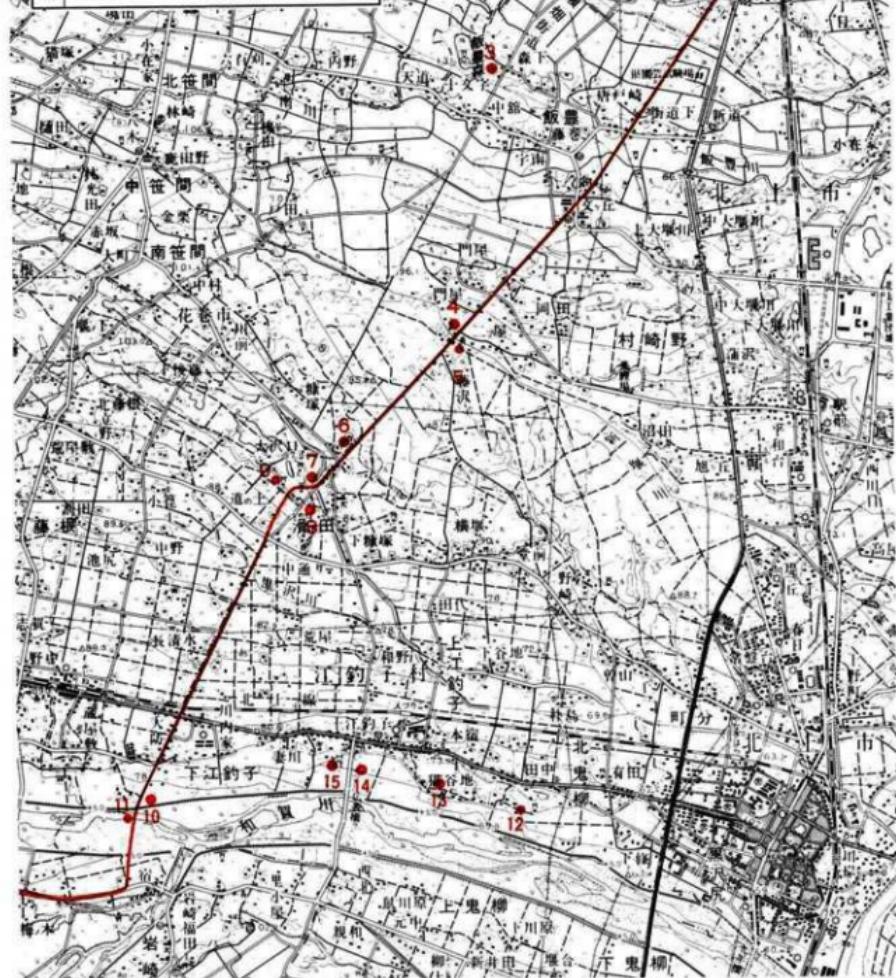
湯田町 白木峠途中の杉の木



湯田町 湯本博物館

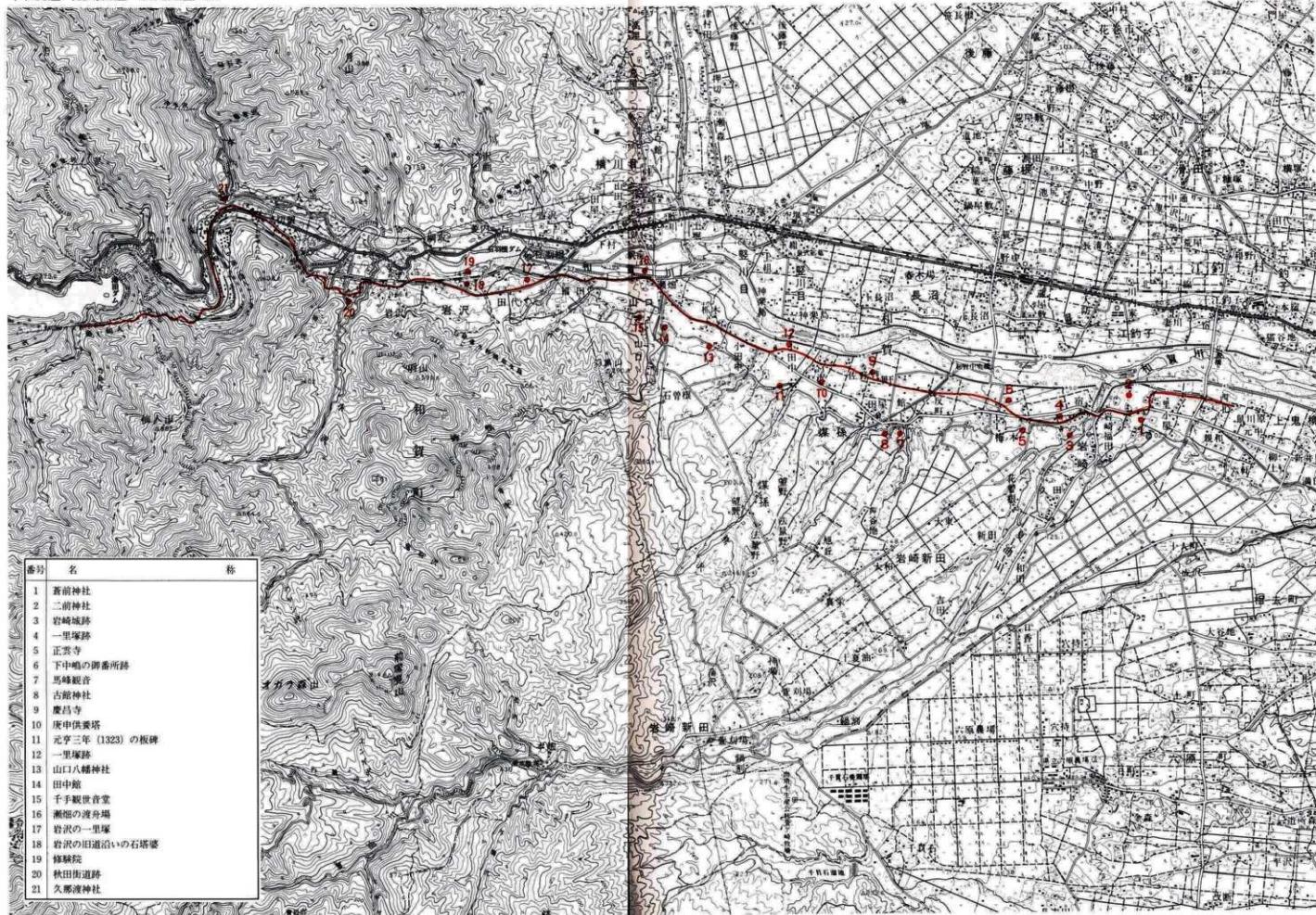
平和街道（岩崎街道・沢内街道）(1)

番号	名 称
1	岩崎街道への分れ付近に残る松並木
2	不動の道標
3	飯豊森
4	天王神社
5	奥寺神社
6	新平の一里塚跡
7	新平・清田の道標
8	新平遺跡
9	八坂神社
10	御免町
11	和賀川の川渡し
12	八幡神社
13	江釣子古墳群のうち檜谷地古墳群の所在地
14	江釣子神社
15	金明寺



この地図は、建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図を複製したものである。（承認番号）昭55能 複、第228号

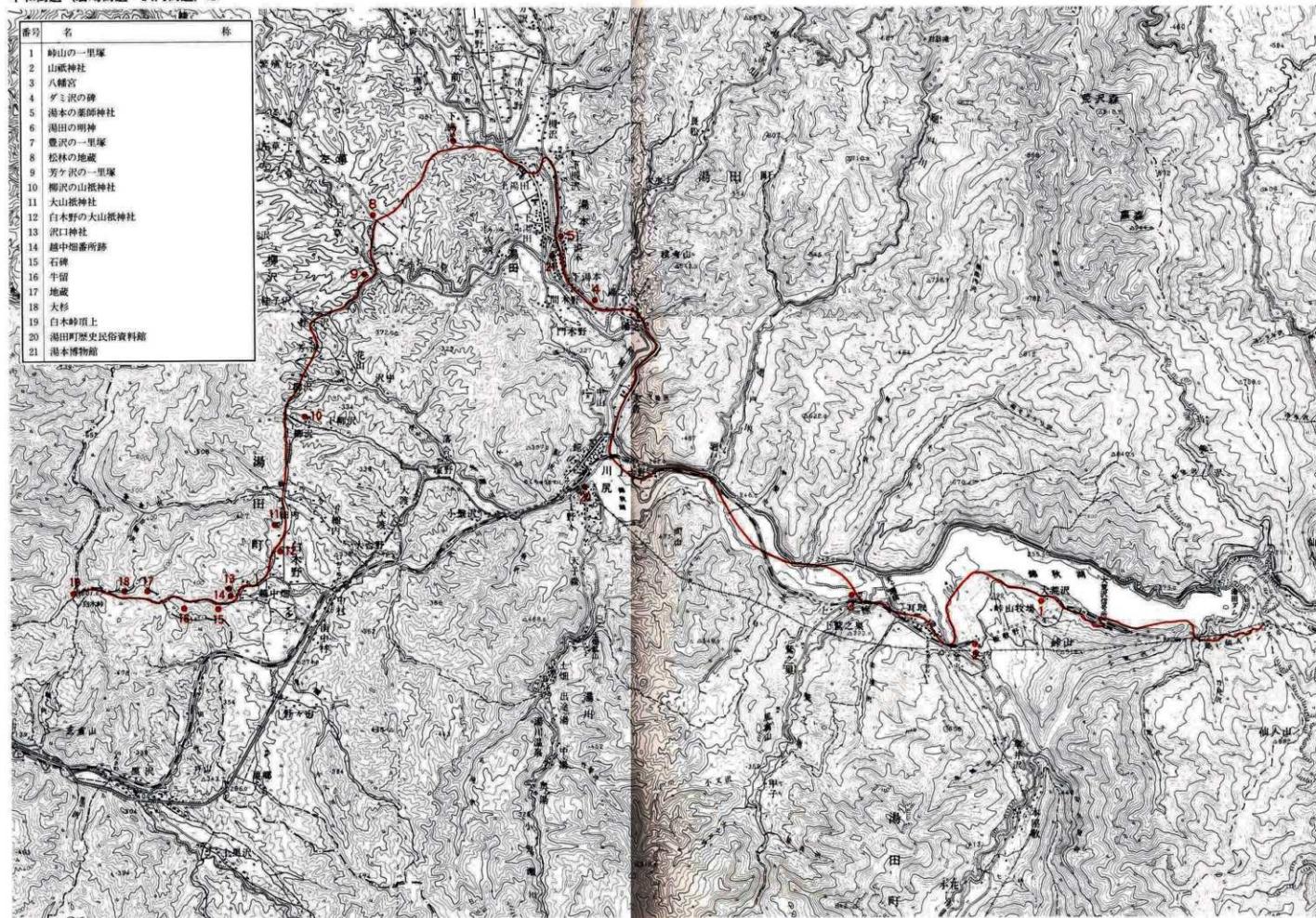
平和街道（岩崎街道・沢内街道）(2)



この地図は、建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図を複製したものである。（承認番）昭55総 複、第228号

### 平和街道（岩崎街道・沢内街道）(3)

番号	名	備考
1	峯山の里塚	
2	山祇神社	
3	八幡宮	
4	ダミ沢の碑	
5	湯本の御前神社	
6	園田の御神	
7	豊沢のー里塚	
8	松林の地蔵	
9	男ケ沢のー里塚	
10	柳沢山の里神社	
11	大山祇神社	
12	白木野の大山祇神社	
13	渡口神社	
14	越中畠番所跡	
15	石碑	
16	牛留	
17	地蔵	
18	杉	
19	白木峰頂上	
20	湯田町歴史民俗資料館	
21	湯本博物館	



この地図は、建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図を複製したものである。(承認番号) 昭55總 第、第228号

岩手縣文化財調査報告書 第四十四集

老和街道

昭和五十五年三月三十日 発行

編集 岩手県教育委員会事務局文化課  
発行 岩手県教育委員会  
印刷 山口北州印刷株式会社